

国語科学習指導案

指導者 浜岡 恵子

日時 平成31年2月
年組 中学校第2学年1, 2組
単元 三浦哲郎「盆土産」(国語2 光村図書)

単元について

「盆土産」は、三浦哲郎が1980年に発表した『冬の雁』所収の短編である。出稼ぎの父親から、家族の元に「盆には帰るすけ。土産はえびフライ。油とソースを買っておけ。」という電報が届く。盆には帰れないかもしれないと聞かされていた家族(特に姉、弟)は、父親の急な帰郷の知らせに戸惑いを感じながら、電報に書かれた「土産は、えびフライ」を楽しみに待つ。ただし、都会から遠く離れた所に住む姉弟は「えびフライ」を見たことも、食べたこともない。様々なものが国内はもちろん世界中を流通する現代に生きる生徒たちは、はじめ「えびフライ」を知らない姉弟の状況を不思議に感じるであろう。そのような時代背景を理解するための工夫は必要である。そのうえで、二人が初めて聞く「えびフライ」への期待、そして食べた時の満足感、幸福感が作者の巧みな表現を通して生徒に自然と伝わっていく。そして、読み進めていくにつれ、「えびフライ」は、家族が互いを思いやる心情と絆の深さを象徴するものであることを作品から感じとるのである。

本校の2学年は、これまでの中学校国語科の学習の中で物語、小説では1年で「花曇りの向こう」(瀬尾まいこ)、「大人になれなかった弟たちへ」(米倉斉加年)、「少年の日の思い出」(ヘルマン・ヘッセ)、2年で「アイスプラネット」(椎名誠)、「世界で一番の贈り物」(マイケル・モーパーゴ)を学習している。概ね同年代の少年や少女が主人公で、主人公に自分を同化させたり、客観化させたりしながら状況や心情を読み取ることを中心に授業を進めてきた。本作品は、「関わりの中で 一さまざまな関係を捉え、考えを深める」として他の二作品とともに一章を構成している。中学2年という大人と子どもの狭間で、特に家族に対して素直になれない時期の生徒たちには、ぜひこの作品を通じて、家族の関わりについて正面から考えさせたいものである。

指導にあたって、家族が互いを思う心情を読むしていくために、主人公の少年からの視点と父親からの視点両方からこの作品を読みたいと考えた。「関わり」を考えさせるとき、一方向からの視点で読み取るだけでは物足りないと考えたからである。単元の前半では、少年からの視点で、父からの電報を受け取った所から別れまでのできごとを時系列に並べ、少年の心情を読み取らせていく。そして単元の後半では、父親からの視点で小説には書かれていない部分(帰郷する前にえびフライを店に買いに行く、都会に戻って仕事に向かう等)を含め、父親の日記という形で、無口な父親自身に家族への思いを語らせることとした。このようにすることで、例えば、主人公が釣ってきた雑魚を父親が食べる様子や、墓参りに行った際、黙ってたばこをふかす姿が、単なる行動描写ではなく、込められた父の思いと重ねて読み取ることができるようになる。また、その思いは帰郷している間だけではなく、遠く離れて暮らす日々の中にもあることに気づく。

現代においても、家族がそろって暮らしている生徒もあれば、この作品と同様、離れて暮らす家族がいる生徒もいる。家庭の事情は様々であるが、この作品からそれぞれが温かいものを感じ取り、改めて自分と家族の関わりにも思いが至るような、豊かな感性を育てていきたい。

指導目標

1. 作品の構成や登場人物の描写に着目して、人柄や心情を読み取ることができるようにする。
2. 作品に描かれている優しさや温かさなどを表現に即して読み味わうことができるようにする。

指導計画（全5時間）

	学習活動	指導の手立て
第1～2時	<ul style="list-style-type: none"> ○初読の感想及び疑問に感じたことを書く。 ○本文を読み，できごとを時系列に整理していく。 ○場面ごとに，家族の会話（特に主人公の少年）を手がかりに，心情を読み取っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読むことの難しさはほとんどないが，時代感覚にはかなりのずれがあるので，資料等を使って説明を加えた方が良い。（出稼ぎ，冷凍食品等） ○「えびフライ」のもつ意味合いが，場面を追うごとに変化していることに注目させる。
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○父親に注目し，本文の描写を確認する。 ○次の2点について考える <ul style="list-style-type: none"> ・父親が「盆には帰れないかもしれない」と言っていたのに，なぜ帰ることにしたのか ・盆土産にえびフライを買って帰ったのはなぜか 	<ul style="list-style-type: none"> ○小説は，少年からの視点で描かれているため，父親の描写はあまり多くはない。その点を踏まえて，しっかりと想像させる。
第4～5時	<ul style="list-style-type: none"> ○父親の日記を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・本文を読んで，日付・曜日を書く。 ・一日の流れも意識しながら，父親の行動や心情を書く。 <p style="text-align: center; color: red;">* 動画 1～4 * ワークシート 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書いた日記を，互いに読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日記は故郷で過ごした2日間に加えて，前後合わせて4日間の日記を書くこととする。 ○日記なので，日付・曜日を書かせる。日付は本文から読み取れるが，曜日は複数の意見が出るので，一旦，クラス全体で日付，曜日を確認する。 ○日記の本文を書き終えたら，互いが書いた日記を読み合えるようにする。その後に，書き加えたいことが出てきたら，どんどん書き足すように促す。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を通して気づいたことを交流する。 グループ → クラス ○今回の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ◆初めに感じていた疑問点を解決することができたか ◆この小説に関する読みの深まりを実感できたか。 <p style="text-align: center; color: red;">* ワークシート 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「えびフライ」が単なる「土産」，「食べ物」ではないことを，交流する際の柱にする。 ○初読の疑問・感想に書いたことを確認し，父親の視点を獲得したことで，学習後に広がりや深まりが生まれていることを実感できるようにする。

学びを豊かにするための手立て

作品を複数の視点から読み進めることで，より深く登場人物の人柄や心情を読み取ることができるようにさせたい。そのために，第一の手立てとして，できごとを時系列に整理して流れを確認させることとする。この手立てにより，場面の理解を助けることにつながると同時に，現在→回想→現在と時間が行き来する立体的な構成が，非常に効果的に作用していることに気づくこととなる。

また，父親の日記を書くことで，作品中では多くを語らない父親に家族への思いを語らせる。正月には「盆には帰れぬだろう」と言っていた父親が，たった「1日半しか休暇をもらえなかった」にもかかわらず，なぜ「えびフライ」を土産に家族の元に帰ってくることにしたのか。本文を根拠にしながら想像力を膨らませていくことが第二の手立てである。

「盆土産」 三浦哲明
【学習目標】○家族のきずなを読みとろう。
(2) お父さんの日記を書こう

昭和 年 八月 十一日(金)

八月十一日 金曜日。
この日は、仕事なのだが、今日は盆で休暇をもらった。私は、今日の夜、青木林にある家へ東京からおみやげ、子ども達を喜ばせるために何か土産が欲しいか、たのびえびフライを買った。せ、かくも、て帰りのたかう、ドライブアインも買いた。夜行列車に乗った。子ども達に会うのがとても楽しめた。

昭和 年 八月 十二日(土)

八月十二日 土曜日。
今日は、青木林にある家へ帰ってきた。夕ひさに帰って来たから、とてもなつかしく感じた。夜は、えびフライを家族で食べた。子ども達は、とても喜んでくれて、おみやげのえびフライを食べていて、私も久いそに雑魚を食へれて、いつも以上にいい感じだった。

昭和 年 八月 十三日(日)

八月十三日 日曜日。
今日は、おんなで死んだ母親の墓参りに行った。夕方仕事のため、東京に帰る。バス停に行くと、少年(？)が見送ってくれた。少年(？)は、別れる寸前、えびフライをと言った。またえびフライを買って帰って欲しい。た、そんなことをも嬉しかった。そして、その後、よなうも言わすに、青木林を後にした。

昭和 年 八月 十四日(月)

八月十四日 月曜日。
今日は、朝から夜まで、仕事だった。昨日の夜、列車の中で眠っていたので、体中が痛くて、たまらなかつた。それもあるが、今日は、何だか仕事に集中できなかった。それは、昨日最後に少年(？)が言った、えびフライが頭にさす。と残っていたから。正月に帰るのが、よソレ層、楽しめなかつた。

(学習の達成度)

気づき・感想・疑問

A

文章を細かく読んでその日、お父さんは何を思ったか、し、かり考えられたか。

【学習目標】 ○家族のきずなを読みとろう。
(2) お父さんの日記を書こう。

昭和 年 八月十一日(土)

今日は午前中は働いて、午後からはフリだったので
冷凍食品のえびフライを買った。なぜ、えびフライを
買ったかというところは今日の夜行電車で子供たちと母
に会いに行きたためだ。夜行は九時間かかるが、
最近、仕事か思しく全然か合えておらず、さみしい
思いをさせているだろうと思ひ故郷に帰るのだ。
子供達はえびフライを見たことないだろう。驚く
顔が見たくて落ちつかない。おいしいえびフライを
食べさせてあげよう。待てよう。

昭和 年 八月十二日(日)

今日、久しぶりに子供達と母に会えた。何より
元気をうで良かった。お土産に持っていたえび
フライはとても喜んでくれた。嬉しかった。九時
間もかけて持ってきたかいがあった。夜はわし
がえびフライを揚げて子供達に食べさせてあげ
た。あの嬉しそうな笑顔、忘れられないだろう。今日
は久しぶり家族に会えた。えびフライも食べさせ
てあげられた。最高の一日だった。

昭和 年 八月十三日(月)

今日の朝はゆくり家で週三、午後からは墓
参りに行った。妻と祖父が死んで二年。みんな
週三の日々は一生心に刻まれている。そう思った。
お墓の前で手を合わせよう願った。昨日、ここに帰
ってきて、今日また出発する。わしはお土産にえびフライを
買って来た。知ってるか? とてもおいしいものなんだ。このお
いしさを味わってほしい。今度は正月に帰る。その
ときまで子供達と母をよろしくな。夕方、バス停まで
息子が送ってくれた。元気でね!!

昭和 年 八月十四日(火)

今日の朝やと東京に着いた。子供達とは離れた
なかにし、これ以上おもしろい思いをさせたくない
と思っただけでお金をかせげずのはわししかないのだ。
ほとんど働いて家族を支えなければいけない。わしは
またえびフライを買っていけるように一生懸命働
くことを心にちかた。

(学習の達成度)

気づき・感想・疑問

A

お父さんの目線から日記を書くことは少し
難しかったけれど、子供達のことを最優先に
考えていることが本文から読みとれた。

国語プリント

二浦哲朗

二年

NO.3

【学習目標】 ○家族のきずなを読みとろう。
(2) お父さんの日記を書こう

昭和 年 七月十一日(金)

今日、仕事が終わった。家族に盆土産のえびフライを買った。きんさん喜んでくれるだろう。えびフライがまじりなうまい。よう、旅行に乗っている間、夜やし続けた。とても眠いし、疲れた。だが、子供達の笑顔がたのしみ。そう思いながら、たえた。家族に会うのが楽しんだ。

昭和 年 七月十二日(土)

久しぶりに実家に帰った。子供達はえびフライを喜んで食べてくれた。お当にうれしかった。次に実家に帰るときは、どんなものをお土産にしようか。いつも仕事ばかりしているせいか、今日はいつもより充実しているように感じた。何より子供達の笑顔を見て元気がなった。これで休み明けの仕事も頑張れよう。

昭和 年 七月十三日(日)

今日で休暇は終わりだ。お当はもう少し居たか。だが、午後からみんなで妻が好んだ。たつスモとスキウツの花を摘んで、参りへ出かけた。悲しんでいる顔を見られた。くなくて、離れてたばこをふかしていた。息子が帰留所まで送ってくれた。いつもは離れたい。大人になつて、泣かされた。息子は、えびフライに決めた。

昭和 年 七月十四日(月)

朝から仕事だった。いつもより多く休暇をとったせいで、体が思うように動かない。なまけていると怒られた。家族との会話を思い出し、ながら、仕事をした。正月に帰るのが楽しんだ。

〈学習の達成度〉

気づき・感想・疑問

A

父親の気持ちも細かく考えて書くことが出来た。

